

ミニテスト

～ファーストエイドについて～

☒ ファーストエイドについて（ ）内に記入してください。

ファーストエイドとは、急な病気やけがをした人を助けるための（ ）のことをいう。

ファーストエイドにより（ ）、（ ）、それ以上の（ ）ことが目的である。

☒ 出血について（ ）内に記入してください。

全血液量は、体重の約（ ）%である。

動脈性の出血：（ ）ような出血で、（ ）色。一気に大量の血液を失うため（ ）の恐れあり。

（ ）の出血：湧き出るような出血で、（ ）色。出血が持続すれば、出血多量となり生命に危険を及ぼす。

（ ）の出血：（ ）ような出血で、一般的に放置しても問題はない。

☒ 生命に危険な出血量について（ ）内に記入してください。

体重60kgの人には、約5Lの血液量がある。全血液量の（ ）%が急激に失われると、危険を知らせるサインとして（ ）症状が体に現れる。また、全血液量の（ ）%を失うと、生命に危険を及ぼすといわれている。

☒ ショック症状（出血性ショック）について（ ）内に記入してください。

体内を循環する血液が急激に失われ、（ ）に有効な血流が維持できず、（ ）が保てなくなることを（ ）という。ショックが進行すれば、重要臓器が（ ）をきたし、正常な細胞代謝を障害する悪循環に陥り、（ ）が発生し、死に至る危険もある。

ショック症状には、（ ）、（ ）、（ ）、（ ）などがある。

☒ 直接圧迫止血法について（ ）内に記入してください。

出血部位に、（ ）なタオルやハンカチなどを当て、その上から（ ）し、出血を止める方法。

タオル等に血液が滲んできている

→（ ）しっかりと圧迫する。

力強く圧迫しているにポタポタと血液が垂れる

→圧迫位置がずれている可能性があるため、（ ）を確認し、もう一度力強く圧迫する。

☒ 感染防止について（ ）内に記入してください。

応急手当によって感染する確率は、0%ではない。（ ）や（ ）にも感染の危険はある。

（ ）ようにし、応急手当を行った後は、速やかに（ ）で洗い流す。

止血時は、（ ）や（ ）などを使って血液に触れないように手当をすることが大切。

流水がない場合は、（ ）や（ ）などを用いて目に見える血液は拭き取り、その後、流水で洗う。

人工呼吸時は、（ ）や（ ）があれば利用する。両者とも（ ）と一緒にセットになっていることもある。

☒ 熱傷について（ ）内に記入してください。

熱傷とは、（ ）や火等の熱によって（ ）すること。

低温でも長時間、熱にさらされると、（ ）を引き起こす。

（ ）や（ ）は皮膚が薄いため、熱傷になるまでの時間が早い。

熱傷の（ ）や範囲によっては、熱傷部位のみならず、（ ）を引き起こす場合もある。

水疱がある場合は、（ ）ようにする。

広範囲熱傷や重症の傷病者では、（ ）に注意が必要です。低体温は、循環に悪影響を及ぼすため、ほかの病態を誘発させる可能性もある。

☒ 傷病者管理について（ ）内に記入してください。

救急隊等が到着するまで、もしくは病院に連れて行く間に（ ）や（ ）し、傷病者の（ ）を和らげ、（ ）ために有効。

保温とは、人工的に熱を加える事ではなく、傷病者が（ ）ことであり、保温の目的は（ ）ことである。

熱中症や本人が拒否した時以外は、（ ）に努める。

搬送法において重要なことは、傷病者に苦痛を与えず、（ ）することである。

また、搬送前には必要な手当てを行い、搬送時には（ ）し、安静に搬送することに努める。

☒ けいれんについて（ ）内に記入してください。

けいれんとは、（ ）を原因とする、筋肉の発作性の急激な不随意収縮。

けいれん中は、（ ）や（ ）の危険があるので、口の中にももの入れたり指を入れたりしない。また、（ ）を起こす危険があるため、無理に押さえつけたりしない。

けいれんが治まったら、（ ）を行い、反応が無ければ（ ）の可能性もあるため、心肺蘇生法の手順に従う。

☒ 熱中症について（ ）内に記入してください。

熱中症とは、湿度が高かったり、暑い環境に体が適応できず、（ ）がうまくいかなくなる体の異常であり、炎天下で運動をした時以外にも、夜間や暑い室内、（ ）いたときなどにもなる。

高齢者は、（ ）が鈍くなっていたり、（ ）が少なくなっていたりするため、熱中症のリスクが高くなる。

（ ）は、体温調節機能が（ ）であり、大人と比べて地面に近い位置で生活しているため、照り返しの影響を受けやすくなっている。

熱中症の症状は、多量の（ ）、全身の倦怠感、（ ）や（ ）などがあり、重症化すると（ ）や（ ）なども出現する。

熱中症の応急手当は、まずは（ ）を行い、異常があれば直ちに一次救命処置に移る。

熱中症を防ぐには、こまめに（ ）をし、夏場は扇風機やエアコンを活用することで、高温・多湿の環境を避けること。

水分補給の際は、水ではなく（ ）や（ ）を飲むと良い。